

# 「草刈り隊」が 流行中

水田の畦畔や農道、獣害柵の下の草——  
草刈りが行き届いているむらは、気持ちがいいが、  
高齢で草刈りが困難な人も増えてきた。  
そこで今、草刈りを請け負う「草刈り隊」が各地で  
誕生。労力不足を解消するしくみができれば、美しい  
むらが戻り、小さい稼ぎや交流も生まれてくる。





標高220mの神谷集落の田んぼ。神谷農事組合の田植え機を共同利用している

年をとっても安心、ラクラク

## 「草刈りとも補償」

京都府南丹市・神谷集落

柿迫義昭

(京都府南丹市・神谷らくらく草刈り楽草代表)

### 高齢で広い畦畔の草刈りが困難

私が暮らす南丹市美山町の神谷集落は、かたに10年前から1ターナー者が3人定住し、16戸33人、高齢化率は43%になりました。

山に囲まれた集落内の5haの農地は、1984年に圃場整備が完了。80年に立ち上げた神谷農事組合が中心となって、これまで1枚の田んぼも荒らすことなく、みんなで守ってきました。

典型的な中山間地域の棚田ゆえ、1筆当たりの面積は5〜10aと小さく、大部



筆者 (69歳)

分は畦畔です。毎年無限に生えてくる草と闘いながら、除草剤に頼らない米づくりを続けてきました。炎天下、急斜面で足を踏ん張りながら刈り払い機を振るうのは、高齢者には過酷な作業です。近い将来、美しい農村景観を維持することがむずかしくなってくると感じていました。そこで考えついたのが、地元の誰かに気兼ねなく草刈りを任せられる「草刈りとも補償」。通称「神谷らくらく草刈り楽草」を、2013年に事業化することにしました。